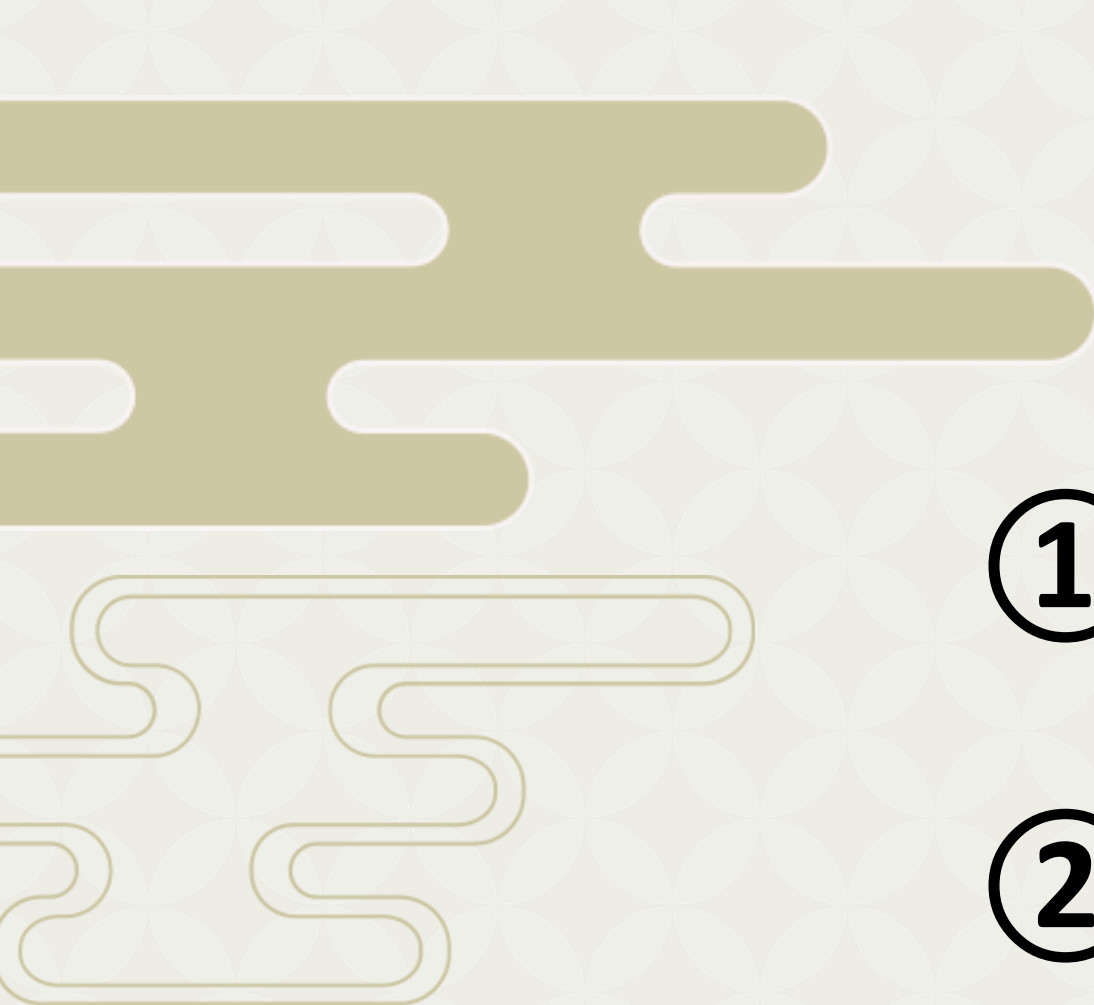


広島県三次市の鶺鴒の紹介パネル作成と活用

広島女学院大学人文学部日本文化学科
発表者 石田小都里 共同研究者 中田小百合





目次

- ①三次鶺鴒飼の歴史・特徴
 - ②現地インタビューより
 - ③三次の鶺鴒飼が抱えている課題
 - ④展示パネルの作成
 - ⑤発表に向けての準備
- 

①三次鵜飼の歴史・特徴



歴史

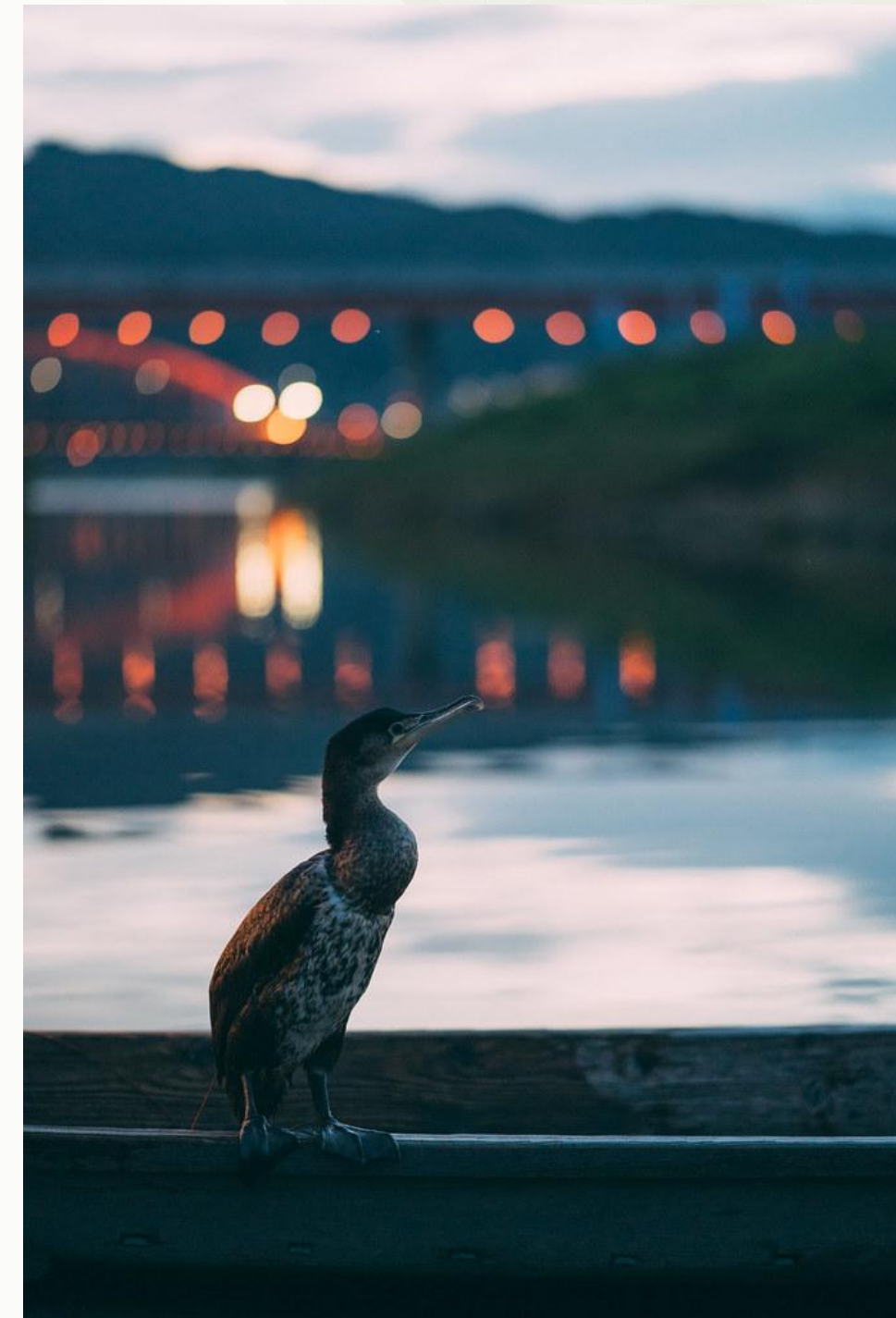
- ・ 約450年以上続く伝統
- ・ 広島県唯一の鵜飼

特徴

- ・ 三川合流地点で行われる
- ・ 並走鵜飼
- ・ 日本最長 約7mの手縄
- ・ LEDライトを使用



- 鵜を使って魚を捕る伝統的な漁法
- 約1300～1500年の歴史を持つ
- 日本では現在11ヶ所で開催
- 漁だけでなく観光資源としても活用



②現地インタビューより

（インタビューに応じてくださった方 三次観光案内所 藤田様

開催期間：6月1日～9月10日

→アユ漁がメインのため、アユの旬に合わせた期間設定

※9月以降は鵜飼を停止し、地元漁師による網漁に切り替え

夜間実施の理由

→日中は魚が活発で捕獲が難しいため、魚が寝静まる
夜に実施

観光スタイル

→遊覧船に乗りながら食事・飲酒を楽しみながら
鵜飼を観覧



鵜匠・関係者について

日坂文吾鵜匠会長

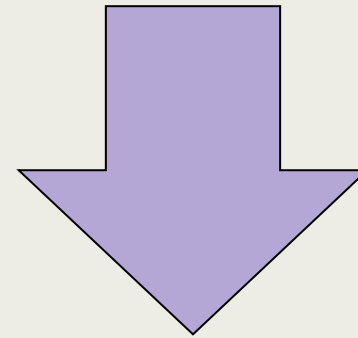


★三次鵜飼の鵜匠は3名いる！！
日坂文吾鵜匠会長（初代日坂家）
角山与四郎鵜匠（5代目）
上岡亮介鵜匠（6代目）



女性は鵜匠になれないのか？

そんなことはありません！！



★実際に京都の宇治川に唯一の女性鵜飼が在籍している



鵜継承・後継者育成の取り組み

教育活動-

出前授業実施し中学生に鵜飼体験乗船を無料招待

和船研究・国際交流

海外の和船研究家が2週間三次に滞在し、鵜舟（笹舟）を無償で建造。一般公開も実施。



③三次の鵜飼が抱えている課題

後継者不足、腰みの職人の減少、船大工の減少など、関連する伝統技術全体の継承が急務。



担当者（藤田氏）のやりがいと課題

+

やりがい

知れば知るほど深まる三次鶺鴒飼の魅力（木造船・船頭技術・鶏の飼育など）を学ぶことが原動力。

課題

後継者不足への対応と、関係者間のコミュニケーション（頑固な古参メンバーとの調整）

※ 掲載写真はすべて許諾済み

④ 展示パネルの作成

1. 三次の鶺鴒を知らない世代に鶺鴒を知ってもらうことが必要だと考えた
2. 対象は高校生とし、三次の鶺鴒の紹介パネルを作成することにした

【パネルについて】

- ・ A3サイズ 1枚
- ・ 高校生に分かりやすい表現にする
- ・ 親しみを持ってもらうためにイラストや写真を使う
- ・ 目的は、高校生に三次の鶺鴒を見に行ってもらう

⑤発表に向けての準備

発表場所：大学のオープンキャンパス

発表方法：パネル＋パワーポイント＋展示資料

発表時期：未定

発表内容：10分程度

高校生に三次の鵜飼を説明する

パネル作成の状況経緯の報告する

発表の感想についてアンケート依頼する

アンケート結果をパネルの改善に活かす

発表の結果を三次観光案内所に報告し、意見を
聴取し今後活かす

ご清聴ありがとうございました!